

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第42週 2024年10月14日（月）～2024年10月20日（日）2024年10月24日作成

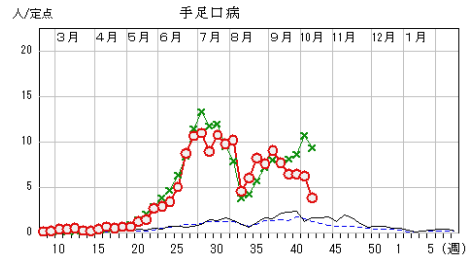
☆定点[※]報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）手足口病

第42週の報告数は169人で、前週より106人少なく、定点当たりの報告数は3.84であった。

年齢別では、1歳（39人）、2歳（33人）、3歳（26人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（9.00）、県央保健所（5.14）、壱岐保健所（5.00）であった。

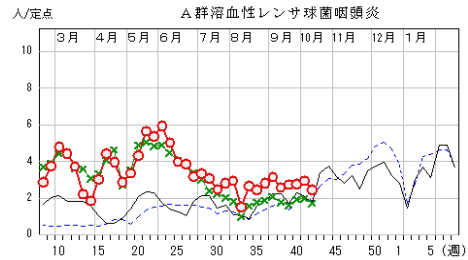


（2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第42週の報告数は108人で、前週より22人少なく、定点当たりの報告数は2.45であった。

年齢別では、10～14歳（20人）、5歳（16人）、9歳（14人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（10.80）、対馬保健所（9.50）であった。

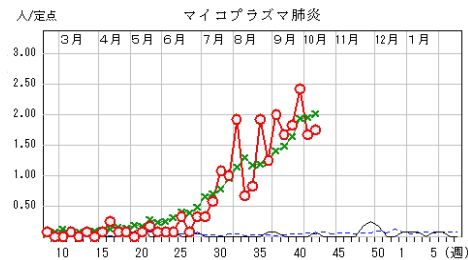


（3）マイコプラズマ肺炎

第42週の報告数は21人で、前週より1人多く、定点当たりの報告数は1.75であった。

年齢別では、5～9歳（8人）、0～4歳（7人）、10～14歳（4人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（5.00）、県央保健所（3.00）であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
 × 当年(全国) 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【手足口病】

第42週の報告数は169人で、前週より106人少なく、定点当たり報告数は3.84でした。6月中旬より18週続けて警報レベルの報告数となっています。多くの地区で前週より減少しましたが、県南地区、五島地区、対馬地区をのぞく地区で警報レベルの報告数がかが継続しています。

本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第42週の報告数は108人で、前週より22人少なく、定点当たりの報告数は2.45でした。地区別にみると県南地区（10.80）、対馬地区（9.50）は、警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【マイコプラズマ肺炎】

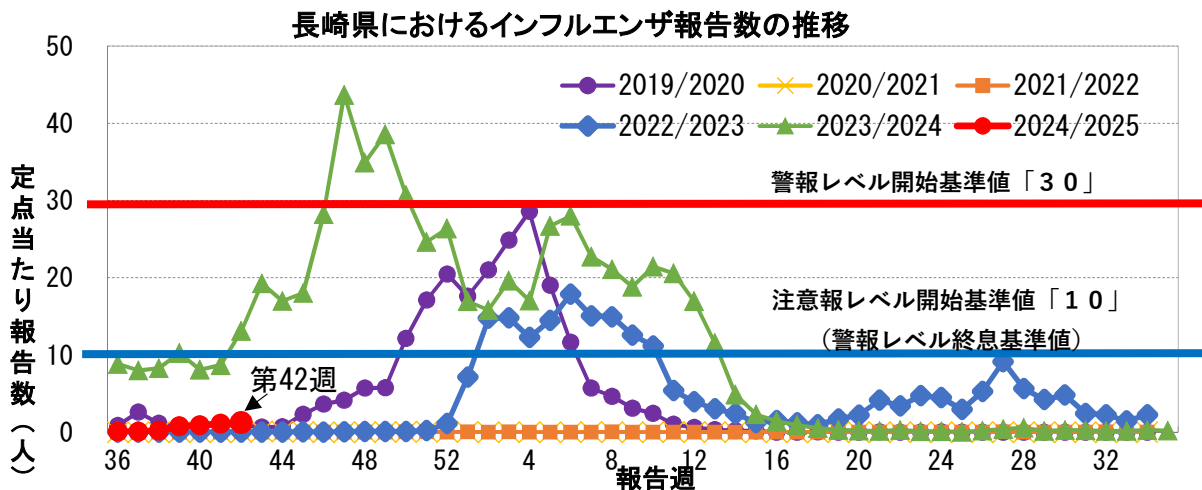
第42週の報告数は21人で、定点当たり報告数は1.75となりました。地区別では、長崎地区（5.00）、県央地区（3.00）が多くなっています。

本疾患は、肺炎マイコプラズマという細菌による感染症です。感染経路は、患者の咳やくしゃみを介した飛沫感染や病原体が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。2～3週間の潜伏期間の後、発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などが見られます。咳は、解熱後も3～4週間続くことがあります。予防には、手洗いやうがいを徹底することが大切です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう

2024年第42週のインフルエンザの定点当たり報告数は1.23で前週より増加しました。地区別にみると、長崎地区（3.71）、県南地区（1.50）は他の地区より多く、「1.00」を超えています。

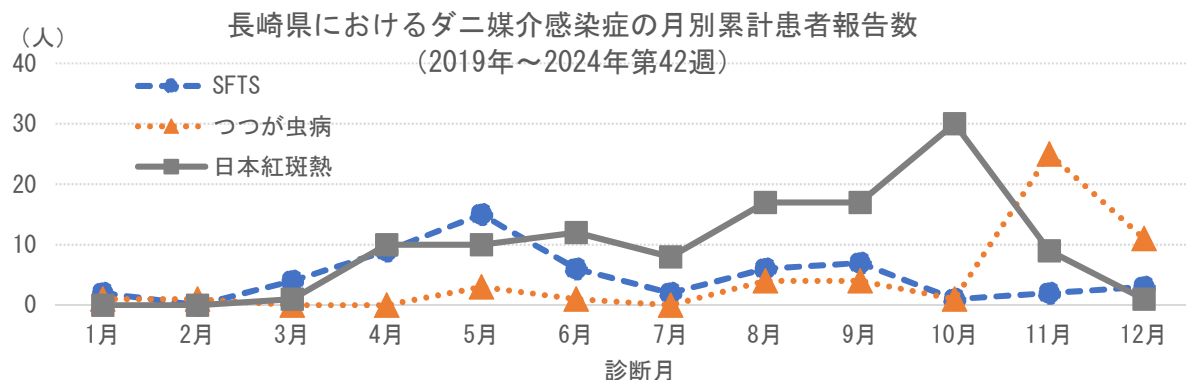
長崎県では、前週（第41週）の定点当たり報告数が「1.10」となり、流行開始の目安となる「1.00」を上回りました。インフルエンザの流行期に入り、今後患者数の増加が懸念されます。手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。



☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、つつが虫病などの感染症を媒介します。春から秋（3月から11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期です。マダニが媒介する感染症のうち、日本紅斑熱は、10月に最も多く患者が報告されています。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。

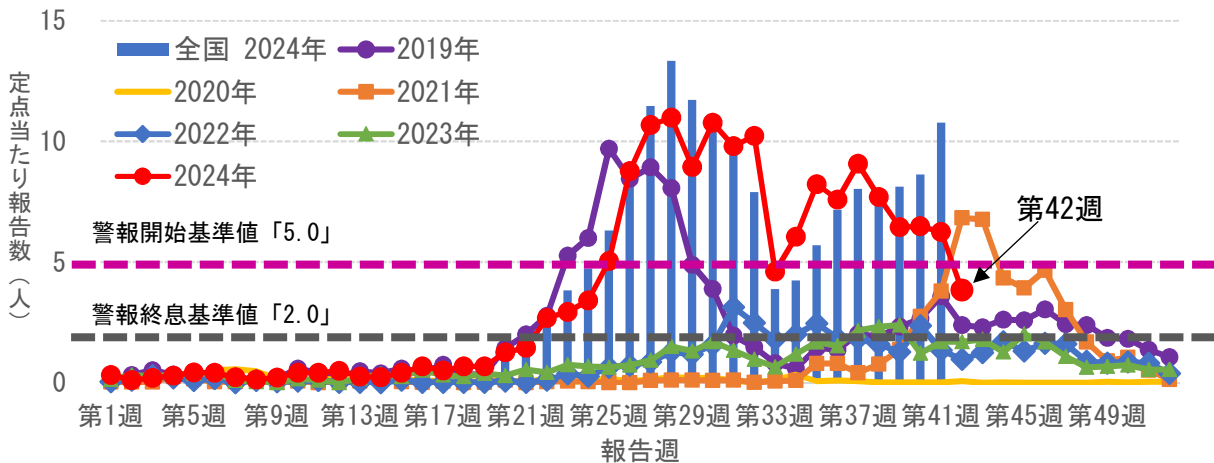


☆トピックス：手足口病が流行しています

手足口病は、四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

長崎県の第42週の定点当たり報告数は「3.84」でした。前週より減少しましたが、警報終息基準値の「2.0」を上回っており、警報レベルの報告数が18週間継続しています。地区別でも、10保健所のうち、県南、五島、対馬を除く7保健所で警報レベルの報告数となっています。今後も手洗い、うがいを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。

長崎県における手足口病報告数の推移



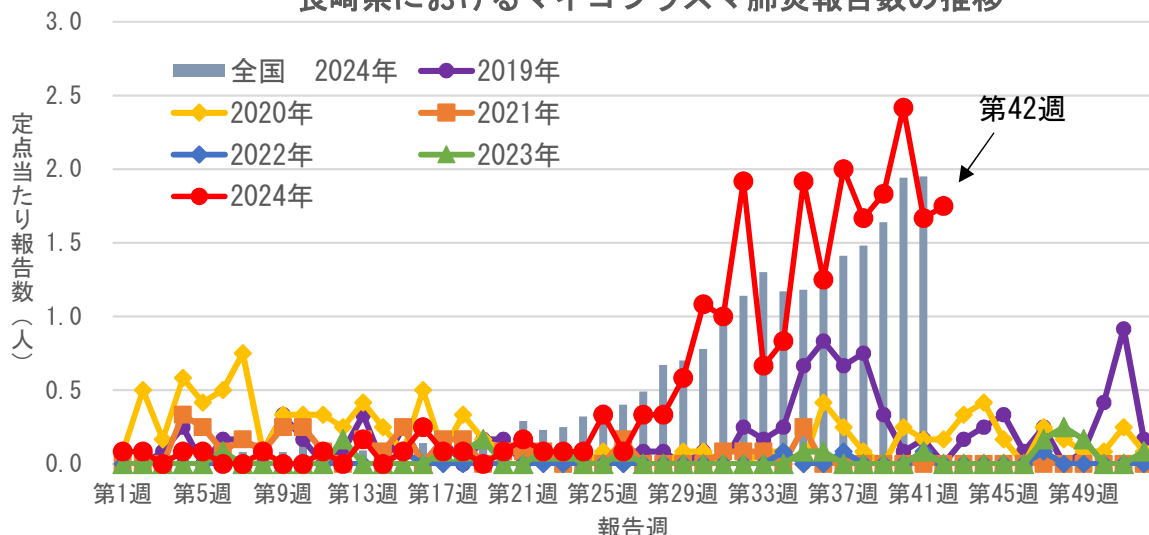
☆トピックス：マイコプラズマ肺炎の報告数が増加しています

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマという細菌による感染症です。全年齢で1年を通して報告があります。感染経路は、患者の咳やくしゃみを介した飛まつ感染や病原体が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。2～3週間の潜伏期間の後、発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などが見られます。咳は、解熱後も3～4週間続くことがあります。まれに重症化することや、無菌性髄膜炎、脳炎などの合併症がみられることもあります。

2024年第42週の定点当たり報告数は、前週より1人多く、「1.75」でした。2024年は7月中旬から報告数が増加し、第40週には、現行の調査方法となった平成11年以降最多の定点当たり報告数(2.42)となりました。地区別では、長崎地区(5.00)、県央地区(3.00)、西彼地区(1.00)、壱岐地区(1.00)、上五島地区(1.00)から報告が上がっています。年代別では、10歳未満が最も多くなっています。

予防には、手洗いやうがいを徹底することが大切です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

長崎県におけるマイコプラズマ肺炎報告数の推移



◆全数届出の感染症

- 2類感染症：結核 患者 男性（70代・1名、80代以上・1名）
- 3類感染症：報告なし
- 4類感染症：日本紅斑熱 患者 女性（80代以上・2名）
- 5類感染症(全数把握対象)：百日咳 患者 男性（70代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第37~42週、9/9~10/20)

疾患名	定点当たり患者数					
	37週 9/9~	38週 9/16~	39週 9/23~	40週 9/30~	41週 10/7~	42週 10/14~
インフルエンザ	0.06	0.19	0.76	0.86	1.10	1.23
新型コロナウイルス感染症	3.23	2.37	1.74	1.81	1.29	0.87
RSウイルス感染症	0.36	0.23	0.05	0.16	0.16	0.05
咽頭結膜熱	0.27	0.36	0.07	0.18	0.20	0.16
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	3.16	2.57	2.73	2.77	2.95	2.45
感染性胃腸炎	1.20	1.68	0.84	1.48	1.50	1.23
水痘	0.05	0.02	0.09	0.18	0.09	0.09
手足口病	9.07	7.70	6.45	6.48	6.25	3.84
伝染性紅斑（リンゴ病）			0.02	0.05	0.07	0.11
突発性発しん	0.32	0.20	0.30	0.25	0.27	0.30
ヘルパンギーナ	0.57	0.50	0.36	0.45	0.48	0.48
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.07	0.11	0.02		0.02
急性出血性結膜炎	0.13				0.13	
流行性角結膜炎	0.75	0.50	0.38	0.25	0.75	0.38
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎	0.17		0.17	0.08		
マイコプラズマ肺炎	2.00	1.67	1.83	2.42	1.67	1.75
クラミジア肺炎（ワム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）					0.25	

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第42週、10/14~10/20) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	1.23	0.36	3.71	0.33	0.33	0.27	1.50	0.25			
新型コロナウイルス感染症	0.87	0.91	0.82		0.83	1.18	0.38	0.50	0.25	0.67	3.67
RSウイルス感染症	0.05	0.17					0.20				
咽頭結膜熱	0.16		0.10		0.25	0.57	0.20				
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.45	1.67	0.80		1.50	1.00	10.80	1.00		0.50	9.50
感染性胃腸炎	1.23	2.83	1.60		1.75	1.14	0.20	1.67			
水痘	0.09		0.10			0.14	0.20	0.33			
手足口病	3.84	4.83	2.90	5.00	3.25	5.14	1.40	9.00	4.00	2.00	1.00
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.11	0.50				0.29					
突発性発しん	0.30	0.17			0.50	0.86		1.00		0.50	
ヘルパンギーナ	0.48		0.10			0.71		5.00			
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02					0.14					
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.38	1.00	0.33				1.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	1.75		5.00	1.00	1.00	3.00				1.00	
クラミジア肺炎（ワム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											